

株式市場新聞

www.marketpress.jp

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒530-0005
大阪市北区中之島4-2-28 甲南アセット中之島ビル

TEL 06-6105-1904



1 第313号

日経平均株価

2万8478円56銭

▼9円31銭(前日比)

TOPIX

1995.68

▼1.33(前日比)

2022
1/10
月曜日

安川電機上振れあるか!?

2月期の3Q決算発表始まる

正月気分が抜けたところで第3四半期決算が2月期企業から本格化してくる。国内では新型コロナウイルスの感染沈静化で緊急事態宣言が解除されてから数カ月経過した。外食や小売りの集客状況が改善されたなかでの決算発表となるが、直近ではオミクロン株の感染拡大から不安が再び高まっており、第4四半期以降の見通しをどのように判断するか気になる。3月期企業の動向を占ううえでは11日発表の安川電機(6506)の内容も注視されよう。

イオンG改革効果を期待

600億
円超の市場



第3四半期決算が始まる

第3四半期発表に注目されるのが11日発表の安川電機。2022年2月期の通期は連結営業利益で前期比2.1倍の580億円予想だが、中国ではEVや二次電池、ニューインフラに絡むFA関連需要は拡大基調が続く。場コンセンサスを超過するうえで、第3四半期までの進捗状況が焦点となる。需給逼迫が続く半導体関連では半導体や液晶工場に導入されるウエハ、ガラス基板の搬送装置を製造するローツエ(6323)が12日、2022年8月期の第1四半期(9~11月)決算で半導体・液晶製造関連のプラズマ用高周波電源装置大

手のアドテックプラズマテクノロジ(6668)が13日に発表を予定している。ローツエの2022年2月期通期は営業利益で前期比54.2%増の143億6000万円と大幅な増益を計画しており、安川電機と同様に第3四半期までの進捗状況が注目の小売イオン(802)は、そのグルー

であるイオンモール(8905)やイオンファンタジー(4343)などは11日に発表を予定している。イオンはリアル店舗とデジタルを融合したイオン生活圏を創造する構造改革を推進し、緊急事態宣言解除による効果が期待される。2022年8月期の第1四半期発表では13日のファーストリテイリング(9983)も見逃せない。

日経平均日足チャート



前週の動意銘柄

トヨタ 上場来高値 車載ソフト実用化と伝わる

大発会
4日、ト
ヨタ自動
車（72
03）が
急反発、
上場来高
値を更新
した。2
5年にも
次世代車
の加速や
安全制御

販売、独フォルクスワーゲンなど自動車メーカーのほか、車載ソフトの標準仕様を握ることで収益を得る「プラットフォーム」の地位を狙うとしており、新しい収益源として期待された。為替が円安に振れていることも追い風になった。

那須鉄とJMCSがS高

那須電機鉄工（5922）とJMCS（5817）がストップ高。政府は再生可能エネルギーの

普及のため次世代送電網の整備方針を打ち出すと伝わったことを受け、超高压送電用鉄塔のほか通信鉄塔、架線金物、地中線材料などを扱う那須鉄と洋上風力発電ケーブルを手掛けるJMCSがビジネスチャンス拡大を期待した買いを集めた。岸田首相が22年6月に初めて策定する「グリーンエネルギー戦略」で示すよう指示、総額2兆円超の投資計画を想定しており、政権を

あげて取り組む方針で民間の参入を促すとしている。

三井松島石炭輸出禁止

三井松島ホールディングス（1518）が大幅安。インドネシア政府が、石炭の輸出を31日まで一時的に禁止すると伝えられたことが嫌気されたようだ。国内発電所の石炭備蓄が少なくなっていることが理由としており、石炭の輸入販売を手掛ける同社への影響が懸念されている。

正直いいさんの株で大判小判

年明けの東京市場は大荒れの1週間になりました。日経平均は大発会に510円高と幸先のいいスタートを切りましたが、6日には844円安と年始の上げを帳消しにしてさらに下値に突っ込む急落、週間では313円の下落日線や5日線も割り込みFOMC議事録の内容期債利回り上昇へ警戒たことが要因で、グロの動きが加速、マザーズ指数は2準に暴落しました。おむね底堅く推移しましたが、新興銘柄はきつい下げになり、落の最中でもグロース銘柄が散見され、突っ込み警戒感が強まっています。連休明けは雇用統計を受けた米債、米えで、直近IPOを中心にグロース株のリバウンド狙いです。花咲翁

直近IPOのリバウンド狙い



が漂っていた。

明治機総会招集請求で思惑

明治機械（6334）がストップ高。筆頭株主の日本コンベヤから臨時株主総会招集請求に関する書面を受け取ったと発表したことが、思惑買いを呼び込んだ。

請求内容は資本金の額の減少、監査等委員である取締役1名の選任、会社法316条2項に定める当社の業務及び財産の状況を調査する者の選任で、請求内容を慎重に検討したうえで対応方針を決定、開示するとしている。

イーソル自動運転で人気

株も人気を集めた。

片倉MBO不成立も

5日、イーソル（4420）がストップ高。米、中、独など世界の自動車大国が高度な自動運転の実用化に向け、公道での走行試験や法整備を急いでいるとの報道を受けて自動車組み込みソフトを手掛ける同社

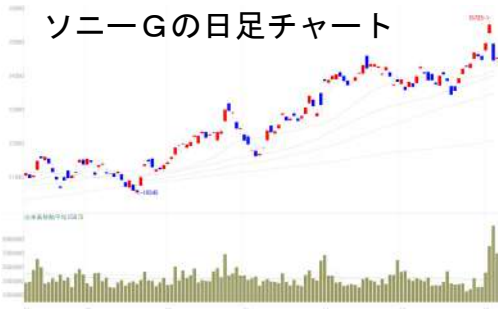
1）が大幅統落。かたぐらが同社へのMBOに向けて実施しているTOBについて買付価格を2150円で据え置くと発表

したことで、売りが優勢になった。買付予定数の下限は2214万6000株だが、応募株数が下限に満たなかった場合はTOBは不成立となる。筆頭株主だった香港の投資ファンド、オアシス・マネジメントが同社株を売却していたことが判明、MBOの先行きに不透明感

ソニーG大幅高で新値

EV新会社設立し本格参入検討

5日、ソニーグループ(6758)が大幅高で新値追い。米ラスベガスで開催されている世界最大のテクノロジー見本市「CES 2022」の会場で会見をした吉田憲一郎社長が「電気自動車(EV)事業を担当する新会社を22年春に設立する」と発表したことが買い手掛かりになった。社名はソニーモビリティで、EV事業参入を本格的に検討。会場では



ソニーGの日足チャート

直近公開株に買い戻し

6日、サイエンスアーツ(4412)とGRC(9250)がストップ高。連日大幅に安値を更新するマザーズ指数に対して、この日は大きく売りが込まれた直近公開株が買い戻しの動きとなった。サイエンスアーツは公開価格1710円の2.7倍の4545円で初値をつけ、1万8600円の高値を付けていた。GRCは公開価格3600円を50%上回る5400円で初値をつけ、1万3000円の高値を付けていた。

テルモ判断引下げ

テルモ(4543)

貢献を目指した新たなフォームファクターとしてSUVタイプの試作車両「VISION'S 02」を展示した。

が急落。みずほ証券が投資判断を「買い」から「中立」へ、目標株価を6400円から4700円へ引き下げた。安定性に対する評価は変わらないが、成長性については従来に考えていたほど営業利益率の改善が早まらない見通しとしている。

大洋物産主総会請求

1)が統騰。主要株主の敷島ファームから臨時株主総会招集請求に関する書面を受け取ったと発表したことで思惑買いを集めた。目的は取締役5名の選任で、12月28日の定時株主総会で敷島と会社が提案した取締役選任とストック・オプションに関する報酬などが否決されていた。

松井証券

今こそ始めるデイトレード

松井証券の一日信用取引

手数料0円 金利・貸株料0~1.8%

取引
コスト

プレミアム
空売り

独自
サービス

最短3分でお申込み完了!

【無料】新規口座開設はこちら

marketpress.jpのバナーをクリック

無料オンライン授業実施

ギークス

テーマは「プログラミング」

「今日から君もエンジニア!!」プログラミング言語に触れてみよう!」を
 実施する。
 20年の小学校に続き、21年に
 中学校、22年には高校でプログラ
 ミング教育が必修化されるなど、プ
 ログラミング教育への関心が高ま
 るなか、今回のオンライン授業では

問合せ先はギークス広報
 pr@geechs.com

企業レター

ギークス(7060)は

バリエーションが豊富な国内最大規模の中小学
 生対象プレゼンテーションアワー
 ド「スタートアップJエアワード2
 021」に協賛。1月12日(水)午
 後5時から6時に小学生・中学生
 を対象とした無料オンライン授業
 を実施する。

同社グループでプログラミングス
 クールを運営するシードテックの
 講師が登壇、小中学生に向けて「プ
 ログラミング」をテーマにした授業
 を実施する。

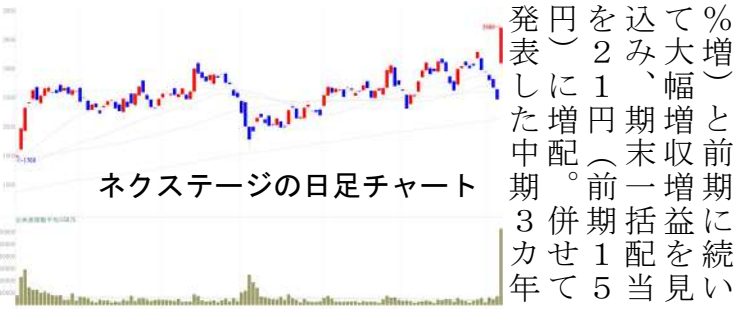
講義では日常生活でプログラミ
 ングが活用されている場面やプロ
 グラミングを用いる職業などにつ
 いて解説、子どもたち一人ひとりが
 「プログラミングを学ぶ意味」を考
 えるきっかけをつくる。また、講義
 の後半では、実際にプログラミング
 言語に触れて簡単な開発にも取り
 組む。

ネクステージ上昇トップ

今期28%増益で意欲的中計も

売上高3500億円
 (前期比20.2%
 増)、営業利益17
 5億円(同28.3

週末7日、ネクステージ(318)が急反発、東証1部上昇率に立ち昨年新高値を更新した。2月の12日までの12ヶ月の業績は、



ネクステージの日足チャート

計画で、最終年度の24年11月期に売上高500億円、営業利益300億円と意欲的な目標を掲げたことも好感され、クルマ販売だけだけでなく、整備や保険、買い取りと次のクルマの提案まで総合サービスを提供することで管理顧客数を拡大、収益性を高める。

金融日米金利上昇

三菱UFJファイナ
 シヤル・グループ
 (8306)、三井住友
 ファイナシヤルグル
 ープ(8316)のメ
 ガバンクや東京海上

グロースからバリューへ

新春相場は大発会でロケットスタートを決めた東京市場でしたが、FOMC議事録を受け逆噴射の急落と上下に忙しい動きとなりました。今年には五黄土星の年なので、どちらに振っても平穩では済まない年が予想されるため、このような急騰急落は一年を通して何度も通らねばならない道となりそうです。

さて、1月第1週を終え、物色の流れが大きく変化しました。キーエンスやレーザーテックなど、昨年活躍した値高株に崩れ足が見られる一方、三菱UFJや第一生命など金融株が浮上してきました。大発会の一番人気銘柄は売買代金ではトヨタ自動車と昨年に引き続きEV関連がテーマだと示しましたが、出来高では三菱UFJでインフレ懸念による金利上昇を意識せねばならないことを示しました。グロース株からバリュー株へのシフトが今後、鮮明になるのではないかと思います。

日々勇太郎



前週の動意銘柄

ホールディングス(8766)など保険を含め金融セクターが堅調。米10年債利回りがフシ目の1.7%を突破、米国事業の運用利ザヤ拡大による収益改善が期待される。国内でも10年物国債利回りが0.120%と9カ月ぶり高水準に上昇、地銀にも買いが広がった。

感染対策関連賑わう
 川本産業(3604)やアゼアス(3161)、重松製作所(7980)など感染対策関連が賑わった。感染力が強い「オミクロン株」への置き換わりで新型コロナウイルスの新規感染者が急増しており、医療現場からの需要急増を期待。川本産はガーゼなど医療用衛生材料アゼアスは米国デュポン社製の防護服、重松製は産業用防毒マスクで高シェアを誇り、使い捨て含む防塵マスクも扱う。

乱高下した第1週

超大型株集中のあとは暴落？

先週の日経平均は前週末比約313円安となった。週初は年末ポジションを落とし、投資家の新規買いの資金が入り上昇したが、FOMCの議事録が公開されると米国の金利引き上げが前倒しで行われることが警戒され米国株が下落、日本もつれ安した。

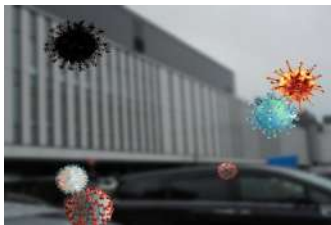
敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。



の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。



アルゴリズムも新規感染者数に反応し始める

トヨタの日足チャート



下げは大きく、おきたい。今週も上値が重い展開と予想する。日本が先行して回復すると期待されていた経済もオミクロン株の急拡大により懸念が生じ

拍車を掛けた。今年は第1週から乱高下する展開であった。話題となったのは3日にGAF Aの一角のアップルの時価総額3兆ドル(約340兆円)となり、1社で東証の時価総額の半分になりドイツ取引所の時価総額を超えてきたということだ。これだけ時価総額が大きくなっていくが、PERは32倍と決してバブルとはいえない。しかも、新規事業として電気自動車(EV)や拡張現実(AR)、仮想現実(VR)などの事業へ参入しており期待値は大きい。ポートフォリオを組む上で組み入れざるをえない銘柄であるが、これらの超大型株に投資が集中すると暴

落を迎えるというアノマリーもあるようだ。2000年のITバブル崩壊、2008年のリーマンショック前にいざれも時価総額の大きい超大型株に投資が集中し、その後マーケットは暴落している。国内でもトヨタ自動車やソニーなど時価総額が大きい銘柄に年初から買いが入っており、その傾向が見受けられる。世界的に拡大続くコロナウイルスにより経済活動が不透明になり、業績の安定感のある超大型株に消去法的に投資しているようだ。

小型株はマザーズ指数の下落が物語るように換金売りが続いている。信用取引の評価損率が30%となっており、個人投資家は厳しい状況のようだ。今週の下落に於いても米国の下落に比べて日本株の下落のほうが大きい。昨年もこの欄で書いたが日本株は米国株に比べて「上げは小さく、

日経225先物日足チャート



はじめ、日本の優位性がなくなりつつある。アルゴリズムも新規感染者数に反応し始めており、悪材料に敏感になってきている。拡大の入り口に入り始めたばかりの我が国はこれからが正念場である。チャートの先週一旦は下げ止まった2万8500円処を週末には割ってきている。週末の安値(2万8293円70銭)を割ってくると2万8000円を試す展開となりそうである。一方、上値は一目均衡表の雲の上限である2万8900円処が抵抗ラインとなりそうである。1月SQ週でありボラティリティの高い週を予想する。

2万7900円から2万8900円を想定する。

(ハチロク)

業績相場の色彩強まる

FOMC意思表明に揺れる年

場合、景気
拡大期が続
くことが前
提となるの
で、今年は
より業績相
場の色彩が
強まると見

光世証券

取締役 西川 雅博 氏



相場展望

意が必要だ。10年債金利で昨年3月の1.74%水準を大きく超えてくるようだと要警戒だろう。

いずれにしても今年は米国の金融政策が正常化に向け舵を切られるのは間違いなく、株式市場は1年を通じてFOMCの意思表明に大きく揺れ動く年となりそうだ。ただ、過去30年の米国利上げ局面と株価の関係を見れば、特にその前半局面で株価上昇の経験則が確立していることは認識しておきたい。その

ている。

ここに来て日本でもコロナ感染の急拡大が懸念され出した。オミクロン株の感染スピードは早く感染者数は一気に急増する可能性が高いが、海外の状況や医療体制の充実、人々の学習効果から想定を超える事態には陥らないだろう。重症化率が低位に留まると見られていることもあり、市場が極端に悲観に傾くことはないと考えられる。むしろ、ピークアウト後の個人消費の反動的拡大を見越した戦略を取りたい。

現在、日経平均の今期予想EPSは2050円でPERは14倍程度である。アベノミクス以降の中心値15倍を下回っており、来期10%程度の増益期待を勘案すれば2万8500円近辺は割安であろう。今年の目標株価としては来期EPS2250円で、PER15倍の3万3000円〜3万4000円辺りまではあり得るのではないか。

為替市場ではドル高圧力が強まり、ドル円は昨年比で5円程度の円安レンジを予想する。業績動向を中心にファンダメンタルズに基づいた銘柄選定で押し目を狙う投資スタンスを堅持したい。投機に走らずそうした方針を貫くことがサステイナブルな資産形成を可能にするであろう。

クラウドファンディング第4弾

BOOSTERで募集中

MURAMO BATHSALT

最高のバスタイムをあなたへ

←QRコードからアクセス

星野三太郎の株街往来

～時代の変化とともに失う文化～

今年、年賀状は昨年の27日頃から準備に取り掛かり、投函したのが29日とかなりギリギリだった。昔は多いときで50枚以上送っていたが、親しい友人とはお互いに年賀状を出すを取りやめることにしてきた。なので今年のは10枚チョット程度にまで減らすことができた。書くのに手間はかからなかった。LINEをしてる友人とは、新年の挨拶も年賀のスタンプで交わし、取材先の担当者とはFacebookで挨拶することが増えてきた。そのような中でも年賀状を送るのは、昔の職場の上司になるが、この数年で逝去した方が増えたことから、必然的に年賀状を送る枚数は減ってきた。

葉書として残すことで、それを数年後に読み返して、思い出出すことができるが、SNSだとそれをするのはしないので、古き良き習慣はある程度残すべきとも思う。ただ、楽なことを覚える程度倒なことはしなくなるので、この先、年賀状を送る習慣が無くなる可能性もある。時代の変化とともに失う文化は仕方がないところだが、銘柄探しなど仕事での手間をかけるのは今年以降も変わらない。



New product

雑味感じないキレある後味

サッポロチューハイ99.99限定発売



サッポロホールディングス(2501)のグループ企業であるサッポロビールは「サッポロチューハイ99.99クリアアップル」を1月12日から全国で数量限定発売する。

「サッポロチューハイ99.99」は、「理想の“飲みやすさ”を追求した上質なチューハイ」をコンセプトに、2段階白樺ろ過によって磨き上げた純度99.99%の高純度ウォッカを使用した満足感のある飲み口と、雑味を感じないキレのある後味が特長のチューハイ。今回発売する「クリアアップル」ではパッケージデザインをアップルフレーバーを想起させるクリアな赤を缶全体で表現。缶体上部にアップルの果実をアイコンとしてわかりやすく表現している。アップルの爽やかな果実感とスッキリとした後味を楽しむことができる。

“走り”と“安全”支える技術

住友ゴム工業

TOKYO AUTO SALONに出展

DUNLOPブース



住友ゴム工業(5110)

S U O O る 催 セ 張 県 で 6 から 1 は
A T K _ され 開 メ ッ 幕 千 日 4 1
L O A Y T 月 日 日 日 月

ON 2022」にDUNLOPブースを出展する。今回のブースでは「FEE L NEW DUNLOP(体感せよ!新生ダンロップ)」をコンセプトに「走り」と「安全」を支えるタイヤの技術発信する。

ピクトグラムを用いてそれぞれの性能をグラフィカルに表現したタイヤ展示や、高音質で車内の音を聞き比べることができると、聴覚型コンテンツ、タイヤのテクノロジーとメカニズムを3Dで体感できるVRコンテンツを通して五感で楽しみながらタイヤを理解できる。



記者の視点

相場見通し

指標相次ぎ戻り鈍い

個別は2月期3Q決算を意識

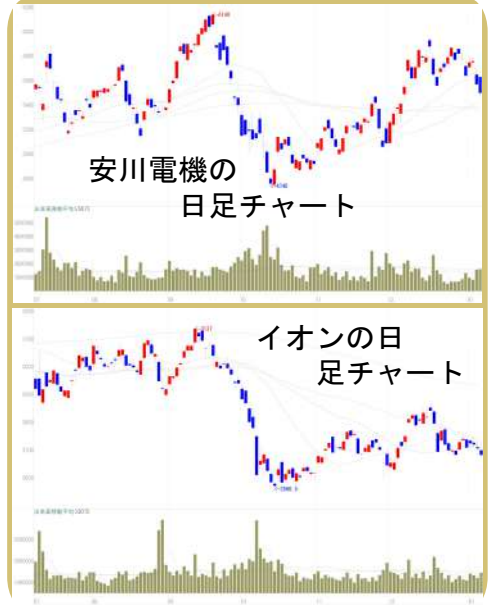
NY市場の急落から6日は、800円以上の下げ幅となり、8日も朝寄りで325円高の後、急速に値を消し続落で引けている。

ダウは1月5日に3万6952・65ドルまで買われ最高値を更新しており、利益確定売りの範疇と捉えられるが、日経平均の場合も25日線割れまで急落しており、早々に25日線と75日線を割れたナスダック

動したクに連動きになつて、この週末の相場は、国内でのオミクロン株感染者急増が確認された段階で先物からまた売りが出た。

好材料が見当たらない日本株がリスケットのターゲットにされている構図が浮かぶ。今週は米12月雇用統計の発表が通過し、一旦はアベノ景況による買い戻しを期待したいが、12日に12月消費者物価、13日に2月消費者物価の発表が予定されている。両方とも前年同月比でのプラスが想定内だが、発表後のNY市場の動きを見極めるまでは戻りが鈍いかも知れない。

加えて、新型コロナウイルスの感染が更に増加すれば緊急事態宣言も論議されそうである。その場合のマーケットの影響も注視したい。週末の注



当面のスケジュール

- ・10日 成人の日で休場
- ・11日 上場会社の新市場区分選択結果公表
11月景気動向指数
- ・12日 11月国際収支
12月景気ウォッチャー調査
米12月消費者物価指数
- ・13日 12月マネーストック
12月工作機械受注
- ・14日 12月国内企業物価指数
米12月小売売上高
資産運用EXPO(東京ビッグサイト～16日)
東京オートサロン(幕張メッセ～16日)

分議事録で想定以上のスピードで利上げやバランシングの縮小を示唆するタカ派内容が、2月期3Q決算を意識した動きが、12日に12月消費者物価、13日に2月消費者物価の発表が予定されている。両方とも前年同月比でのプラスが想定内だが、発表後のNY市場の動きを見極めるまでは戻りが鈍いかも知れない。

加えて、新型コロナウイルスの感染が更に増加すれば緊急事態宣言も論議されそうである。その場合のマーケットの影響も注視したい。週末の注

縁起を担ぐほうではないが、寅年生まれで当り年なので、今年の運勢を調べてみると年男と同時には年末にもある。そういえば年末に年賀状を書く時間がない、元旦早々にとりかかるとうと、入っているパソコンが立ち上がらず、半日以上かかって手書きするハメになった。事前に点検しておくべきだったと反省している。

東京市場は上々のスタートを切ったが、6日には年明けの上げを帳消しに、マザーズは暴落し個人投資家は早くも窮地に追い込まれた。気を引き締めて臨みたい。

編集後記

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。